

○長野県茅野市

AI 乗合オンデマンド交通「のらざあ」について

【所 見】

定時定路線の路線バスに替わる新たな移動サービス、いつでも、行きたいときに、行きたい場所へ、しかも適正な金額で利用でき電話予約だけでなく、スマートフォンアプリからも予約可能で1週間前から1時間前でも予約できるのは、急な用事が出来た場合も助かり、利便性が高く、本市においても将来導入できたら市民の皆さまの生活が豊かになるのではないかと感じました。

人口約56,500人に対し、運行開始から1年で登録者数10,373人と多くの方が利用されているのがわかります。高齢ドライバーの免許返納等もあり、70歳代～80歳代の利用者が多くみられます。

電話とスマートフォンアプリでの予約方法では年齢が高くなるに従い、電話による予約が多くなる傾向になってはいますが、90歳以上では70歳代、80歳代の方よりもアプリ予約が多く、ご家族の方が代わりに予約されているのではないかと推察されます。

実際に利用されている方からの反応も良く、親御さんの送迎者が利用するようになったとのことで環境にも優しい良い効果が出ていると感じました。

本市では民間路線バスが撤退したことから、足利市生活路線バスが公共交通軸を担っていますが、本市における1人あたりの自家用車保有台数は市町村別で全国10位以内に入り、現在は日常的に公共交通を利用している市民は少数と思われます。今後、高齢者ドライバーの免許返納や高齢世帯、単独世帯の増加、2040年には高齢化率が40%と推定され、高齢化率の上昇により公共交通の重要性が更に高まると想定されます。

高齢者の方が通院、買い物など移動に困らないよう、更に幅広い世代の方にも利用してもらえよう路線・ダイヤ設定、バスの延伸の検討を更に進めていくと共に将来的にAIの必要性を感じました。

○岐阜県可児市

消防団員確保の取組について

【所見】

地域防災力の中核として欠くことのできない代替性のない存在である消防団の拡充・強化は全国的に大きな課題であると思います。

火災現場で行われる消火活動には多くの人手が必要であり、大地震などが発生し道路が寸断されてしまえば消防署から救助に向かうことはできず、そのような場合、頼りになるのは同じ地域の住民によって構成され、地域とつながりが深く、地域の各種事情に精通している消防団です。本来の仕事をしながらかつ日々訓練を行い、消火活動などの重要な任務を担うことには多大なご苦勞があると思います。

貴市における消防団組織は4分団、各地域16部、女性消防分団で構成、団員定数343名、令和5年度の団員数は299名と過去5年で-29名と減少傾向。

消防団員確保の取り組みでは、消防団員募集に関する問題点を団員にアンケートをとるなど現場の声を尊重しようとする姿勢は素晴らしいと感じました。

令和4年度から市操法大会を中止、訓練式典などの負担軽減に取り組まれた点などは、団員の方の心身の負担の軽減になり、操法訓練を実施している時と比べて参加率も良くなり、途中でいなくなる団員（幽霊部員）がほとんどいなくなるなど取り組みの成果が表れていると感じました。

操法大会に代わる訓練として各部で所属団員の都合に合わせて訓練を計画し、実践的な訓練が行なわれるようになった事で活動に対する意識改革もなされたと推察されます。

消防団員確保の制度の取り組みに関しても、活動に参加しやすい環境整備をされており、準中型自動車運転免許取得費等補助金交付制度、学生消防団活動認定制度での団員の年齢資格を18歳以上に引き下げており、学生の入団増に向けた熱意を感じました。本市においても、現場の声を尊重し現行の見直しも必要とあれば行うべきと思います。